

都市計画全国大会

<記念講演>

城下町水戸と水戸街道の成立

茨城大学図書館長・学長特別補佐・教育学部教授 小野寺 淳



第65回都市計画全国大会におきましては、茨城大学図書館長・学長特別補佐・教育学部教授の小野寺淳先生より「城下町水戸と水戸街道の成立」と題して記念講演を賜りました。その内容を抜粋してご紹介いたします。

■はじめに

ご紹介いただきました、茨城大学の小野寺と申します。本日は、皆様方、ようこそ水戸、そして茨城へお越しいただきましてありがとうございます。しばし、水戸のまち歩き、古道歩きを楽しんでいただければと思っております。

まず、初めて水戸にお越しの方もいらっしゃると思いますので、水戸は「ミツ」とも言い、「湊」を意味しております。北側には那珂川が西から東に流れて太平洋へ注いでおります。南側には千波湖がございます。千波湖は、江戸時代は約三倍の面積を持っており、那珂川と続いておりました。水戸の城下はいわゆる舌状台地の上にあり、この舌状台地の先端に城郭が築かれていました。北と東と南は水に囲まれている場所で、太平洋から船が遡って入り、物資の運搬を行っていました。水戸は水陸の交通の便の良い場所であったということです。すでにご存知の方も多いかと思いますが、もともと平安時代の終わりから戦国時代まで、茨城県の県央から県北にかけては佐竹という大名が支配しておりました。佐竹氏が秋田へ転封になりますと、家康の子どもが藩主となり、御三家の一つとして水戸徳川家が支配することになります。今日は、水戸の城下町や水戸街道が、いつ頃までにできたのか、都市プランとその変化を中心にお話を申し上げたいと思います。

■城下町水戸について

水戸は昭和20年8月2日未明、アメリカ軍による大空襲を受けました。ほとんどの建物が焼け、焼け野原になったといわれています。そこからの復興でございますので、第二次世界大戦以前の建物はほとんど残っておりません。しかし、よくよく歩いてみると、意外に古い建物や土地区画が至る所で目につきます。

江戸時代に作られた城下町の地図が実測図であれば、現在の地図に重ね合わせることができます。しかし、江戸時代の城下絵図の実測図は、ほとんどございません。伊能忠敬の「江戸府内図」、また金沢、鳥取、佐賀などの城下絵図の中には正確な測量図が残されていることが近年明らかにされつつあります。しかし、水戸は実測された城下絵図が

残されていませんので、そのまま現在の地図に落とすことはできません。城下絵図を見ながら一つひとつ場所を確認して、地図上に落としていく作業を行いました。

江戸時代、水戸藩は当初二十五万石でしたが、のち三十五万石になります。藩士の数が増え、田町に武家地を、そして町人地を作りました。これ以前は舌状台地上の道沿いに町人地があり、これを上町(うわまち)と呼び、埋め立て地を下町(しもまち)と呼び、二つの町人地を設けました。これが江戸時代における水戸城下町の基本的なプランであり、空間構造となりました。さらに、那珂川沿いに船着き場を設け、下町の現在の本町2丁目から江戸へ続く道、今日水戸街道と言っておりますけれども、起点が決められました。

三の丸には複数の家老屋敷がありました。水戸に屋敷を構えた家老はここと、舌状台地の下にありました。城郭を囲むように家老屋敷が配置されていたことがわかります。さらに、その外側へ家格が低くなると外側に行く構造でした。幕末、斉昭は海防のために日立の助川に助川城を築かせ、家老を城主にしました。助川城へ移った家老屋敷の跡地に弘道館が建設されました。

光圀の時代には千波湖の中に一本の道ができます。この道は柳が植わっている風情のある道でした。下町の町人が、上町の町人と連絡するためには、ここに城と武家地があるものですから通りづらい。そこで、千波湖の中に堤を通し、行き来する道ができたのです。柳堤(りゅうてい)と言います。柳堤は道路になってしまいましたが、現在も地名、橋の名前として残っております。

現在残る江戸時代の建造物は、水戸一高の入り口に移築された薬医門、東日本大震災でかなり被害を受けました弘道館などです。堀の深さがどのくらいあるか、下に水郡線という電車が通っております。これだけ深いところに、この橋が一本あるだけです。敵が攻めて来たときには容易に入ることができない城郭の構造でした。下町には備前堀があり、町人地の大通りに大店の商家が並ぶ、その裏側に職人町がございました。職人は職能集団によって、住む場所がおよそ決まっておりました。紺屋町には、現在も染物屋さんが数件残っております。



薬医門

■水戸街道の成立について

次に、水戸街道の話に移らせていただきます。一般には水戸街道、そして国道6号線と言っていますが、街路の「街」という字は、実は江戸時代の終わり頃にならないと使われません。「海道」と書いておりました。また、「道中(ドウチュウ)」あるいは「水戸道(ミトミチ)」と呼んでいました。五街道を思い出していただくと、東海道、中山道、そして甲州道中といったように、新井白石が道中と呼び、水戸道も水戸道中と呼ばれた時期がありました。江戸から一六キロ、大名行列ですと三泊四日、普通に歩けば二泊三日で着く距離です。道ができてくるのは1640年くらいと考えられます。ここを通行した大名は、水戸徳川家のほか、土浦の土屋家や笠間の牧野家、小大名の牛久の山口家、志筑の本堂家、現在のいわき市域に当たる安藤家、内藤家、本多家、さらに北へ行くと中村の相馬家などが、水戸道中を通りました。また、仙台の伊達家も数回ここを通りました。このように参勤交代も行われましたが、実は物資の輸送路としても多く利用されました。

江戸を出ますと、松戸、小金、我孫子、取手、藤代、若柴、牛久、荒川沖、中村と通り、土浦、中貫、稲吉それから府中(現在の石岡)、さらに竹原、片倉、小幡、長岡と通っていきます。このように、現在の国道6号線とは結構違うことがわかると思います。歩いてみると古い街並が残っております。

次に、皆さん本陣という言葉はよくご存知かと思えます。将軍家が移動するときに泊まる宿は「御殿」と言っておりました。御三家ということもあり、これに倣い、水戸徳川家の場合は御殿とも呼ばれました。府中宿の矢口家や長岡宿の木村家では、御殿と呼ばれた本陣がありました。同じく御殿の取手宿の染野家は、現在も建物が残っておりますが、古い建物の多くはなくなっております。宿場町は基本的に一つのプランのもとにできておりました。宿場の出入り口は必ず屈曲し、現在は屈曲していると交通の便に悪いので、多くはストレートに直しておりますが、屈曲させていた点が共通点です。この出入り口に必ず神社を祀る。宿場の守護の神社です。商売繁盛の市神様が置かれて、中央には本陣その対面には脇本陣、道の中に入ったところに寺を置くケースが比較的多いパターンです。本陣が宿場町の端にあることはほとんどございません。近年は古道歩きをされる方が非常に多く、ネット上でも水戸街道と検索をすれば、たくさんの方が水戸街道を歩いたよとアップされております。その中には実は誤りもあつたりしますが、かなり皆さん詳しく調べているので、たいへん驚いております。

幕府が水戸城下の地図が見たいときに城絵図を、常陸の国全域を見たいときは国絵図を見ました。国ごとに作られたので、国絵図と申します。元禄常陸国絵図を見ると、朱線の道に両側に黒丸がぼつりぼつりとあります。これが一里山、一般的に一里塚というものです。この一里塚が何処にあったか、道の拡幅などで、実はなかなか見つからないの

です。水戸から最初の一里塚が吉田に、下町の水戸道中の終点、陸前浜街道の起点に現在、水戸市で石碑を建ててくれています。ここから北へ行く、いわきを通過して相馬まで行くので、江戸時代では「岩城相馬道」と呼び、明治になると陸奥を分けて「陸前」「陸中」と呼ばれ、陸前の浜辺を通るので「陸前浜街道」と言っておりました。水戸道中の場合、長岡村と奥谷村、小幡村のあたりに一里塚の印が付いているのですが、この一里塚はどうしても見つかりませんでした。

さらに、橋が架橋されると、かなり変わってしまいます。小鶴というところがあり、ここに潤沼川があります。水戸道中のここは、国道6号とは外れています。潤沼川を渡る個所に、「高橋」という橋があります。水戸道中では、この橋を渡ったと、多くの方は思っている訳ですが、正確に言うと実は違います。橋の脇に小さな道がありまして、これが江戸時代の道です。川まで降りて行きますと、昔、橋があったと分かるような場所が残っております。このように推定し、幅8メートル25センチほど右側に寄ったところに江戸時代の道があったことを明らかにしました。



吉田の一里塚



陸前浜街道起点

■おわりに

最後に、陸路と水路の接合と書かせていただきました。常陸国は、南に利根川があり、鬼怒川や小貝川があり、さらに霞ヶ浦、北浦、潤沼などの湖沼、河川と湖沼を江戸時代には帆船が航行いたしました。東北地方の南部や東部の米なども、常陸国を通過して江戸へ送られました。那珂川を渡ったところに、枝川という船着き場がありました。水戸の対岸です。ここには仙台藩の船着き場と河岸問屋があったのです。もちろん米だけではありません。いろいろな物資が水上輸送で運搬されました。船で運ばれた物資がさらに街道を通り、宿場を通り、そして城下を通過して物資の交換が行われました。実は、江戸時代には全国的な流通網が形成されてきました。全国的な流通網の中で町が出来上がっており、都市・村落、街道・水路、全国的な視野から考えなければならぬということをお話しましたので、講演を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

